広島市教育センター
No.85
平成19年６月

所報

巻頭言

出　会　い

広島市教育センター所長　松　田　了　二

以前勤務したことのある教育センターに，11年ぶりに勤務することになり，つい懐かしく所内を見てまわっています。かつて仕事をした部屋では思わず立ち止まり，その当時のさまざまな事象を思い起こしています。

当時，私は何をどうすればよいのか，全くわからない状態でした。そんな私にさりげなく声をかけてくださったり，アドバイスをしてくださったりした方の顔が鮮明に思い出されます。ここでは，学校という職場では考えたこともなかった仕事上のマナーや手順（段取り），交渉の仕方など，基本的なノウハウを教わった気がします。さらに，一人一人が責任をもって仕事を遂行することで，組織（チーム）が成り立っていくのだと強く意識したものです。

教育センターに勤めて半年が経った頃のことですが，今でも大切にしている「出会い」の一コマがあります。久しぶりに出会った“教え子”に，仕事の能率が上がらず愚痴っぽい話をしたところ，その“教え子”が「誰もができる仕事なら先生でなくてもいい。今の仕事を通して先生が試されているのだと思う。先生ならできると思われているのでは。」と話してくれました。当時私は，その言葉で随分精神的に楽になれました。

人は「出会い」の中から，多くのことを学び，時には慰められたり，励まされたり，そして何より独りではないと勇気付けられたりしているのだと改めて感じたものでした。

人との「出会い」には，時が経ってふと思い起こされるものもあります。

私が教職の道に入ったきっかけは，中学時代の部活動の顧問の先生の，「先生になる気はないか。」という一言でした。その時は，考えもせずにあっさり否定しましたが，大学４年生の時，その一言が思い起こされ，それが教職の道への決断を後押ししたようです。このように将来の進むべき道に影響する「出会い」もあります。

新しい年度を迎え，さまざまな人がそれぞれの思いを胸に新しい生活をスタートされたことでしょう。教育センターでも教職員の資質能力の向上を目指した研修が始まりました。今年度新たに採用された先生方も，熱心に研修されています。その中に“教え子”の姿が見えます。久しぶりの「出会い」が，気持ちを新たにさせてくれています。

もくじ

○巻頭言 …… P.1
○指導主事研究の紹介 …… P.2
○「授業研究ハンドブックⅢ」の紹介 …… P.3
○研修講座だより・コラム …… P.4
○所内情報・図書資料室からのお知らせ …… P.5
○教育センターひろば …… P.6

指導主事研究の紹介

「少人数教育のよさ」を生かした教育指導の工夫改善に関する研究Ⅱ

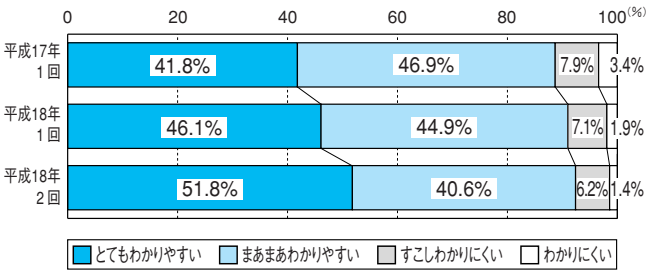
教育センター主任指導主事(事)主任　藤村　和彦
教育センター指導主事　島本　圭子
教育センター指導主事　正原　直行
教育センター指導主事　山領　勲

教育センターでは，昨年度に引き続き，「少人数教育のよさ」を生かした教育指導の工夫改善に関する研究を，研究協力校（１学級の児童数が概ね25人程度で，全学年とも１～２学級程度の小規模校）の協力を得ながら，調査研究と実践研究の二つの方法で進めてきました。その研究成果の概要を紹介します。

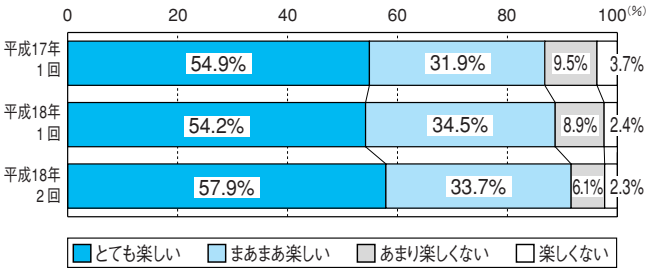
1. 調査研究

昨年度と同様，研究協力校の教師と児童を対象に意識調査を行い，「少人数教育のよさ」に基づく日常の教育実践に対する教師の意識と，日常の学校生活に対する児童の意識を調査しました。２年間の調査結果を比較検証した結果，児童の学校生活の基軸となる二つの項目「勉強がよくわかる」（学習の理解度への意識）「学校が楽しい」（生活の充実度への意識）において，良好な変容が見受けられました。

問１：学校での勉強はよくわかりますか



問２：学級での生活は楽しいですか



このような児童の意識の変容は，「少人数教育のよさ」に対する教師の意識の変容に基づいた日常の教育実践の変容によるものでした。その中でも，最も工夫改善が図られたのは，「児童同士の話し合い活動の質的向上」と「教材・教具の工夫」の視点に沿った教育指導の変容でした。

2. 実践研究

実践研究では，各研究協力校における具体的な教育指導の工夫改善の実際を紹介しています。

（1）A小学校　第5学年B組（26名）における実践

工夫改善の視点	研　究　単　元
児童同士の話し合い活動の質的向上	国語科　身近な生活について討論しよう「インスタント食品とわたしたちの生活」
手だて	○グループ構成 個々の課題を考慮し，誰もが役割をもち，発言できるようなメンバー構成をする。 ○グループの評価 計画的に全グループの話し合いを評価する。グループの毎時間の記録をその日のうちに評価する。 ○個人の評価 個々の学習を毎時間自己評価させ，その評価に基づいて次時の活動の支援を計画する。

（2）C小学校　第2学年D組（21名）における実践

工夫改善の視点	研　究　単　元
児童同士の話し合い活動の質的向上	国語科　むかし話のおもしろさを味わおう「かさこじぞう」
手だて	○課題の明確化と思考時間の確保 課題を明確にし，一人一人が自分の課題として捉えているかを見取ったうえで，思考時間を十分に確保する。 ○計画的机間指導 計画的に全員の机を回り，一人一人の表情を見取り，意図的に声をかけるなどして，思考状況を把握する。 ○学級全体の話し合い活動の評価 机間指導での見取りを生かし，一人一人の考えを引き出しながら，話し合い活動を進める。

（3）E小学校　第6学年F組（28名）における実践

工夫改善の視点	研　究　単　元
児童の自己有用感の感受	算数科全般
手だて	○グループ構成 「少人数学級」をさらに細分化（２クラス３展開）し，少人数指導による授業展開を行う。 ○全員発表 １時間で全員発表を基本とし，児童の発言やつぶやき等，一人一人の考えを生かした授業展開を行う。 ○個人の評価 振り返りカードを活用し，一人一人の学習状況をその日のうちに評価する。振り返りカードへの記述を，計画的に学年通信に掲載することによって学年全体の児童同士による肯定的評価を高める。

研究協力校の実践研究から，教師が個々の児童の学習状況を丁寧に見取り，その見取りに基づいて個に応じた指導や支援，評価を絶えず行っている状況が明らかになりました。少人数学級においては，学級の人数が少ないことで，教育指導を多様に工夫することができ，その効果を児童一人一人の姿から見取りやすいことがわかりました。そして，その確かな見取りが手応えとなり，教師の授業改善への意欲がさらに高まることもわかりました。このような状況が，「少人数教育のよさ」が機能している状況であるといえます。

本研究における調査研究や実践研究の詳しい内容は，『教育センター研究紀要第27号』（７月に配付予定）に掲載します。日常の教育実践にご活用ください。

教育センター刊行物の紹介

「授業研究ハンドブックⅢ」

各学校・幼稚園では，子どもたちに「確かな学力」を身に付けさせるための学習指導の工夫・改善が進められています。
その取り組みの中心となるのが，教師のいわゆる「授業力」の一層の向上を図ることと考えられます。

そこで，教育センターでは，「指導と評価の一体化」を進め，授業改善のより一層の充実を図るための資料として，これまで，『授業研究ハンドブック』『授業研究ハンドブックⅡ』を刊行しました。『授業研究ハンドブック』では，「子どもの学び」と「教師の実践」に視点をおき，教材研究の進め方や学習指導案の作成方法，授業展開における指導技術，さらには授業の評価について分かりやすくまとめました。

また，『授業研究ハンドブックⅡ』では，各学校・幼稚園における校（園）内研修を改善していくための要点を図示してまとめ，授業（保育）研究の活性化や教師集団における意識の向上への道筋を示しています。

そして平成18年度，個々の教員による**自己研究・自己研鑽に**焦点を当て，日々の授業（保育）実践の中で教員自らが自己の課題を明確にしながら「授業力」を向上させていくための方途を示した『授業研究ハンドブックⅢ』を刊行しました。

このハンドブックでは，「自己の課題の明確化」(Research)から「改善策の検討」(Action)に至る授業改善の流れについて，具体的なイメージをもつことができるように，市立学校・園での実践を基にした事例を掲載しています。

『授業研究ハンドブック』『授業研究ハンドブックⅡ』『授業研究ハンドブックⅢ』を参考に，各学校で授業研究を通した「授業力」の向上に取り組んでみませんか。

ハンドブックについてのお問い合わせ先
担当：堂鼻 指導主事

授業研究ハンドブックⅢ　目　次

第Ⅰ章《授業研究に取り組んでみましょう》
1　授業研究とは
2　日々の実践の中で取り組む授業研究について
第Ⅱ章《授業力を高めましょう》
1　授業力とは
2　授業力を高めるための授業研究のモデル
第Ⅲ章《日々の授業を授業研究の場として活用しましょう》
1　授業における「自己課題」の明確化【Research】
（1）自己の課題を明らかにするための方法
（2）授業力を把握するための方法
2　「自己の課題」の解決を目指した授業研究の計画【Plan】
（1）授業研究の計画を立てるうえでの留意事項
（2）授業研究計画表の作成
（3）学習指導案の作成
3　「自己の課題」を解決するための授業の工夫【Do】
（1）教材・教具の検討・開発・活用の工夫
（2）指導方法・評価方法の工夫
4　「自己の課題」の解決に向けた授業の振り返り【Check】
（1）授業記録表を活用した振り返り
（2）録画機器，録音機器等を活用した振り返り
（3）授業カンファレンスを活用した振り返り
（4）子どもたちへのアンケートを活用した振り返り
（5）子どもたちの成果物を活用した振り返り
（6）その他の方法を活用した振り返り
5　成果と課題を次の授業に生かすための工夫【Action】
第Ⅳ章《授業研究の進め方の事例を見てみましょう》
1　実践事例①（自己診断シートを活用した授業改善）
2　実践事例②（アクション・リサーチに基づく授業改善）
第Ⅴ章《授業力のさらなるアップを目指しましょう》
第Ⅵ章《資料編》

研修講座だより

5月に実施した研修（一部）の概要を紹介します。

特別支援学級等新規担当教員研修講座

主題　「特別な教育的ニーズのある子どもの理解と指導の基本」

講座の概要

この講座は，本年度新たに特別支援学校や特別支援学級，通級指導教室の担当になられた先生方が，特別な教育的ニーズのある子どもの理解の在り方や指導の基本について理解を深めていくことをねらいとして，授業参観や障害者就労支援施設での実習等，多様な研修形態で年間７～８日間実施されます。

初回は，長年特別な教育的ニーズのある子どもたちの教育にかかわってこられた荒神町小学校の古澤正憲校長先生のお話をうかがいました。

子どもたちが生き生きと活動できる学級（教室）を実現させるために，次のことを話してくださいました。

○まずは，目の前にいる子どもがどのような子どもなのか，どのようなニーズがあるのかをしっかり把握する。
○実態を把握した後，子どもにどのような力を付けるのかを考え，指導に見通しをもって取り組む。そのために個別の指導計画を作成する。
○指導計画を基に，一人一人の子どもに合わせた教材を用意し，子どもたちが見通しをもって学校生活を過ごせるように支援する。
○子どもたちを，保護者と共に育てていく姿勢を大切にし，保護者の思いを知る。そのためにも個別の指導計画は保護者に提示する。

コラム　「特別支援教育元年」にあたって

学校教育法等の一部改正が行われ，「特別支援教育」が学校教育法に位置付けられました。このことを受けて，本年度より，すべての学校において，障害のある子どもたちの支援をさらに充実していくこととなりました。

しかし，残念なことに，特別支援教育について，「LD，ADHD 等の子どもの教育だろう」「障害児学級（本年度から「特別支援学級」に名称が変更）の担任が指導しやすいように配慮すればいいのだろう」といった声を聞くことがあり，十分な理解がされていない現状を感じることがあります。

特別支援教育とは，障害のある子どもたちの自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立って，子どもたち一人一人の教育的なニーズを把握し，持っている力を高め，生活や学習上の困難を改善・克服するために適切な指導や必要な支援を行うものです。LD 等の子どもたちだけが対象なのでもなければ，特別支援学級の担任だけが行うものでもありません。幼稚園，小学校，中学校，高等学校において，教育上特別の支援を必要とするすべての子どもたちに，学校として全体的・総合的に支援を行うものです。主には，〈個々の教職員が取り組むこと〉〈組織として取り組むこと〉の二つが考えられます。

〈個々の教職員が取り組むこと〉

すべての教職員が，それぞれの立場で，子どもたちの困難な状況やニーズを把握し，取り組みが可能な支援を取り入れた授業改善等を行う。

〈組織として取り組むこと〉

① 校内委員会等で，実態の把握に加えて，学校としてどのような支援が考えられるかを検討する。
② ①において検討された支援を実践し，定期的に評価する機会を設ける。
③ ②の評価を基に実態を捉え直し，支援を継続するか，改善するか，中止するか，あるいは新たな支援を講じる必要があるかを検討する。
④ ①②③のサイクルを継続していく。

これらの取り組みにより，子どもたちのニーズ等に応えることができるようになります。まずは子どもたちの実態を把握し，一人一人の教職員ができそうな支援から取り組んでみましょう。

※　取り組みの具体については，7月25日（水）の「特別支援教育講座」を受講してください。（担当:山領 指導主事）

所内情報

教員長期派遣研修

教育センターにおいて実施している教員長期派遣研修（研究員）の研修期間が今年度から３か月間（前期４月～６月，後期10月～12月）になりました。主な研修内容は次のとおりです。

● 専門的分野に係る指導力の向上を目指した研修

各自のこれまでの実践における課題について解決のための具体的方策を立て，各学校や幼稚園に戻って実践できるような学習・保育指導計画や学習・保育指導案等を作成します。また，授業改善のための適切かつ具体的なアドバイスを行うメンターとしての資質能力の向上を目指します。

● ミドルリーダーとしての資質能力の向上を目指した研修

「学校組織マネジメント」や「生徒指導」等の喫緊な教育課題をテーマとした講義や演習を受講します。学校経営に主体的に参画するミドルリーダーとして，必要な資質や能力を高めることを目指します。

● 職業意識及び社会性の向上を目指した研修

教育センターにおける所内行事への参加や所内の業務体験，及び高齢者福祉施設における業務体験を通して，教職に関する見識や社会的視野を広げることを目指します。

図書資料室からのお知らせ

教育センター３階が【授業づくり支援センター】

（図書資料室，授業づくり支援室（１）（２），教科書センター，教科書資料室）

としてリニューアルオープンしました

講座等でお越しの際に，ぜひお立ち寄りください

●広島市の学校・幼稚園の御協力をいただき，たくさんの研究成果物やカリキュラム関係資料が集まりました。研究紀要等 は 図書資料室の各学校のボックスに，2学期制用のよい子のあゆみや年間指導計画，年間学習計画（シラバス）や平和学習年間指導計画等 は，授業づくり支援室（2）に配架しています。各学校・幼稚園のカリキュラム開発・作成の参考資料としてご活用ください。

●全国の教育研究所から送られてきた研究紀要等の最新の教育研究 については，その研究主題を，各学校・幼稚園に配付している「教育関係資料目録」に掲載しています。また，教育センター内部Webページからもキーワードで検索することができます。教育研究等の資料については，来所の際に，係の者がコピーを取ってお渡しすることができます。

●図書資料室で ビデオの視聴と貸し出しができます。エルネットで配信された番組や授業実践のビデオも，授業づくり支援室（1）で視聴することができます。

●２階ロビーの教育雑誌コーナーに，今年度は 29種類の教育雑誌 を配架しています。バックナンバーは図書資料室にあります。是非ご活用ください。

貸し出し

書　籍	個　人	５冊まで，２週間以内
	団　体	10冊まで，３週間以内
ＶＴＲ	個人・団体	３本まで，１週間以内

※なお，17：00 以降のご利用については，事前にご連絡をお願いします。

返　却

書籍については，学校メール便を利用して返却できます。（１回３冊まで）

（担当：大下 主任指導主事）

教育センターひろば

●職員・分掌

	事業等	職名	職員	主な担当業務	
		所長	松田　了二	所務総括	
		次長	尾形　慎治	所務管理・執行	
管理部	庶務	主幹（事）主任	木全　昭夫	管理部総括	
		主査	的場いく子	文書，物品管理，研修事務補助等	
		主査	栗栖美保子	予算・決算，文書，経理，物品管理等	
		主事	瀬戸　靖成	施設・設備管理，予算・決算等	
研修1部	指定研修等	主任指導主事(事)主任	藤村　和彦	研修1部総括	外国語（英語）科
		指導主事	島本　圭子	経験者研修，管理職研修等	算数科，数学科
		指導主事	土井　延久	初任者研修，若手教員研修等	生活科，特別活動
		指導主事	正原　直行	10年経験者研修，管理職研修等	地理歴史科
		指導主事	堂鼻　康晴	主任主事研修，ステップアップ研修，英語教員研修等	外国語（英語）科
		指導主事	山領　勲	ステップアップ研修，特別支援教育研修等	特別支援教育
		研修指導員	井東　弘	指定研修，ステップアップ研修等	理科
		研修指導員	今田　善行	指定研修，ステップアップ研修等	算数科
		研修指導員	松村　繁	指定研修，ステップアップ研修等	社会科
研修2部	一般研修等	主任指導主事(事)主任	住吉　磨	研修2部総括	情報教育
		主任指導主事	大下　恵子	教科等別研修，指導主事研究等	国語科，平和教育
		指導主事	清水　剛	職務別研修，研究員研修の推進等	体育科，保健体育科
		指導主事	岩田　浩一	課題別研修，コンピュータ研修等	情報教育，キャリア教育
		指導主事	胤森　裕暢	課題別研修，指定都市共同研究等	公民科，道徳教育，人権教育
		指導主事	高田　尚志	課題別研修，コンピュータ研修等	理科，総合的な学習の時間
		研修指導員	濱田　昭法	一般研修，職務別研修等	図画工作科，美術科
		研修指導員	松井貴美子	一般研修，職務別研修等	生活科，総合的な学習の時間
		図書資料分類整理員	大下千賀子	図書資料室管理関係事務	

●職員の異動

◀ 離退任 ～ 在職中はお世話になりました ～		
升尾　好博	所長	退職
浜本　博昭	主幹（事）主任	広島市森林公園へ
堂道　和雄	主任指導主事(事)主任	井口台小学校へ
水ノ上俊一	指導主事	東野小学校へ
辻　修壮	研修指導員	退職
▶ 就任 ～ どうぞよろしくお願いします ～		
松田　了二	所長	二葉中学校から
木全　昭夫	主幹（事）主任	財政局管財課から
的場いく子	主査	教育委員会施設課から
土井　延久	指導主事	本川小学校から
高田　尚志	指導主事	鈴張小学校から
松村　繁	研修指導員	安東小学校から

編集後記

本年度も研修や情報提供を通して，皆様方の教育実践を支援していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

●研究員

今年度（前期）は次の10名の先生方が，研修に励んでおられます。　（平成19年４月～平成19年６月）

佐々木　芳（本川小学校）	田渕　恭子（楽々園小学校）
高杉裕美子（温品小学校）	加茂　優子（温品中学校）
久保田祐徳（大河小学校）	網藤　清次（瀬野川中学校）
香川　美雪（古田台小学校）	山西　裕一（広島商業高等学校）
高木　靖佳（亀山小学校）	野上　朋子（矢賀幼稚園）

編集・発行／広島市教育センター
〒732-0068　広島市東区牛田新町一丁目17番1号
TEL　（０８２）２２３－３５６３
FAX　（０８２）２２３－３５８０
E-mail:
center@center.edu.city.hiroshima.jp
外部Webページ：
http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/
内部Webページ：
http://192.168.6.10/

題字●広島市立江波小学校校長　水戸　静真　　表紙絵●広島市立基町高等学校教諭　橋本　一貫

広X6－2007－26(1)

古紙パルプ配合率100%再生紙を使用